

広島民報

2019年 8月25日 第2540号
月3回刊 日曜日発行
発行所 広島民報社
〒730-0013 広島市中区八丁堀8-11/電話(082)228-4046
(昭和41年2月19日第三種郵便物認可)
1ヵ月 240円(送料123円)/1部 80円
郵便振替 01330-2-34778
© 広島民報社 2019年



私立高校の公的支援について会見する(左から)尾野、永島、小林の3氏=8日、県庁

原水爆禁止2019年世界大会 核兵器のない世界へ歴史的転換を

広島に原爆が投下されて74年の8月6日に開かれた原水爆禁止2019年世界大会・広島(ヒロシマデー集会)は、被爆75年の2020年を「核兵器のない平和で公正な世界」への歴史的転換にしよう、「広島からのよびかけ」を採択しました(全文2面掲載)。

日本共産党代表団 志位委員長らが献花

日本共産党代表団は、5日、緒方靖夫副委員長が原爆犠牲者ホームなどを訪問して被爆者を見舞い、大平よしのぶ前衆院議員、辻つねお県議、高見あつみ県常任委員らが同行し、



碑に献花する代表団=6日、広島市



被爆者を見舞う代表団=5日、広島市

6日早朝の平和記念公園にある原爆碑への献花には、志位和夫委員長ら国会議員6人と仁比聡平前参院議員、大平前衆院議員、村上昭二県委員長、辻原謙、中森辰一、近松里子、中原洋美、藤井敏子、吉瀬康平の各広島市議が参加。その後、広島市主催の平和記念式典をはじめ、動員学徒や韓国犠牲者の碑前祭などに、それぞれ参列し、広島県被団協(佐久間邦彦理事長)・被爆者相談所と懇談しました。

核兵器禁止条約が採択された2017年7月以降の2回の平和記念式典で松井一実市長が述べた「平和宣言」

と発表。今回のキャラバンは、国の方針のもと、各県独自の授業料補助制度をさらに拡充し、対象を年収910万円未満世帯にまで広げて補助することなどを求めました。

広島県庁には8日、永島、尾野、小林の3氏を含む9人が訪問して湯崎英彦知事あての要請書を提出。私学に通う生徒が湯崎知事あてに寄せた要望として「入学するのにとても迷いました。お金のことで親に言いがらつたからです」「高額な授業料を親に払ってもらうのが申し訳なく思っています」「高校で入り

たいクラブがあったけれど、部活にお金がかかるので、あきらめました」などの声を「すすめる会」がまとめた資料も提出し、環境県民局・学事課と懇談しました。

3氏は要請後、県庁内で記者会見。永島氏は国の方針について「完全無償化には、まだ程遠い内容だが、大きな前進だ」と評価。「支援拡充に積極的な県もあるのでは、これを機会に各県が積極的に支援を拡充するようお願いしたい」と語りました。

私立小中の授業料軽減申請者が激減

私立小中学校に通う年収400万円未満の世帯の児童生徒の授業料を年額10万円まで支援して減額する文部科学省の「私立小中学校等修学(就学)支援実証事業」が2017年度から5年間の予定で始まり、今年4月から3年目に入りました。

この事業は、私立小中学校に通う児童生徒の保護者が必ずしも高額所得世帯ではない実態をふまえ、「広島県ゆきとどいた教育をすすめる会」の保護者や教職員らが30年以上も教育の無償化をめざして私学助成の拡充などを求めてきた運動で勝ち

取ったものです。ところが、広島県内の申請者数は2年目の18年度に激減しました。2年目にしてブレイクがかかったにも関わらず、その改善もなく3年目に入った形です。

広島私学教職員組合協議会(広私教)が昨年末、2年目の実態について県内の私立中学校23校に依頼して調査した結果、期限までに回答があった13校で初年度の申請者数は269人でしたが、2年目は62人へと4分の1以下に激減。何が原因なのでしょう。

(次号へ続く)

私学助成の拡充を 私立の高校も小中学校も

負担軽減へ粘り強い運動(上)

全国私立学校教職員組合連合(全国私教連、永島民男委員長)や「ふ

やそう私学助成!広島県ゆきとどいた教育をすすめる会」(尾野展昭会長)は、私立学校に通う子どもたちがお金の心配なく教育を受けられるよう粘り強い運動を展開しています。私立高校と私立小中学校について、それぞれ見てみます。

私立高校授業料軽減を
中四国各県へ要請

私立高校に学ぶ生徒・保護者に対する公的支援の拡充では8月6日から4日間、全国

私立高校に学ぶ生徒・保護者に対する公的支援の拡充では8月6日から4日間、全国

私立高校に学ぶ生徒・保護者に対する公的支援の拡充では8月6日から4日間、全国

私立高校に学ぶ生徒・保護者に対する公的支援の拡充では8月6日から4日間、全国

**総選挙で党議席奪還を
仁比聡平前参院議員を迎え**

- [集い] 26日(月)午後6時半~
広島市東区ロードビル3階
- 街頭演説27日(火)午後2時~
広島市中区本通り電停前

地下水

「終戦の日」の8月15日、台風10号が当地を直撃しました。尾道で

1人亡くなる不幸があったものの、昨年7月の豪雨災害に比べれば影響は小さく、安堵した人も多かったでしょう。とはいえ台風一過、秋到来とはならず、まだまだ暑い日が続きます。◆この暑苦しさもさることながら、今夏ずっと筆者を不快極まりなくさせているのは、例の「表現の自由展」の中止問題。中でも、それに絡んだ2人の政治家の歴史をわい曲して恥じない言動です。◆「日本国民の心を踏みにじるもの」と河村たかし名古屋市長は展示を非難し、松井一郎大阪市長に至っては「慰安婦問題」というのは完全なデマ」と暴言を吐く始末。まっとうな心ある日本人を貶め、平気で嘘をついているのは、いったいどちらでしょう。◆民主主義をないがしろにする民主主義も、自由を否定する自由も容認しているからこそ、あなた方も好きに発言できるのです。言論・表現の自由がいかに大切か。皮肉ではなく、本気で彼らに分か

らせないならばなりません。(わ)

らせないならばなりません。(わ)

らせないならばなりません。(わ)

らせないならばなりません。(わ)

らせないならばなりません。(わ)

らせないならばなりません。(わ)